

成溪會誌

2000. 1 No.90



特別寄稿

コンピュータ西暦二〇〇〇年問題 ご存知でしょうか？ am/pm	多田 修……………2 秋澤 志篤……………7
------------------------------------	---------------------------

随想

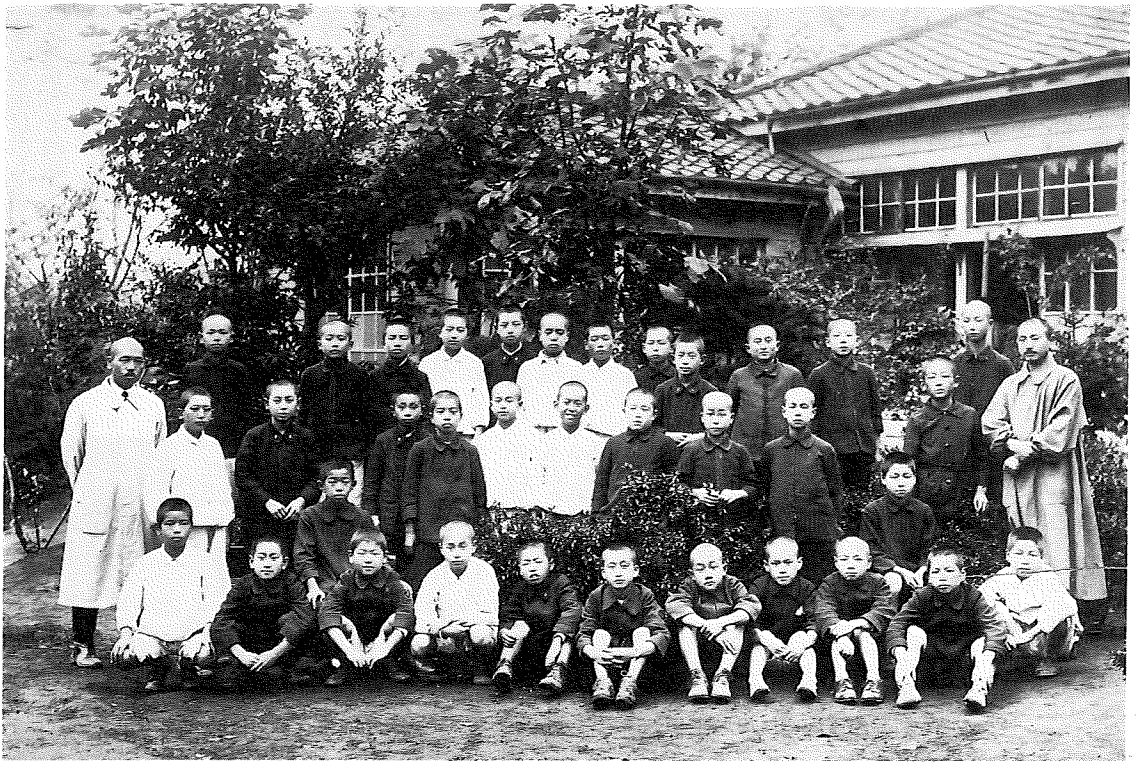
緑の教室 成蹊教育への懐古 成蹊高等女学校と私 西村健二先生の話 校歌作詞者志田義秀先生とその句碑 箱根 ー私の楽しみ方ー 闘魂は死なず！ 道草しながら東海道 陸上競技部とはこんな部です オランダ生活事情	丹治 道生……………11 小野篤次朗……………13 島田喜久子……………15 西村 洋……………18 鷹谷 俊昭……………20 安藤 創造……………22 佐山 和義……………24 森 素子……………26 水谷 一郎……………28 手塚由利子……………30
---	--

地域同窓会連絡先一覧／51 旧制成蹊高等学校創立75周年記念事業／67 成蹊会ホームページ開設／67 表紙絵によせて／70 この人に聞く／64 アルティメットチーム・リベロス世界大会出場／69 同級生交歓／66 緑内障手遅れになる前に／68 成蹊高生・しし座流星群／72 中学ラグビー部日豪親善試合／50 四大学運動競技大会／68 会員動静／52 第39回成蹊会謝恩顕彰会／70 叙勲／66
--

同窓のつどい

● 大学創立五十周年記念ホームカミングデー……………32 ● 恩師を囲んで……………34 ● 横手長治先生の古希のお祝い 宇野ゼミ同窓会 ● 新井益太郎先生喜寿・出版を祝う会 ● 学校・年次会・ゼミOB会のつどい……………35 ● 桃林会 高校卒業20周年 高校卒業25周年 高校卒業30周年 ● 旧高24回ゴルフ懇親会 Q.P. & FRIENDSの会 ● 体育会・文化会OB会……………37 ● ラグビー部青山学院と交流 大学ヨットOB戦 ● 旧制高校滑空班 ゴルフ部OB会 成蹊ラグークラブ ● 業界・企業・趣味のつどい……………39 ● OB写真部写蹊会 成蹊土木会 霞ヶ関CC成蹊会 ● 地域のつどい……………41 ● ロンドン成蹊会 オーストラリア・クイーンズランド成蹊会 ● 上海成蹊会 北京成蹊会 秋田成蹊会 新潟成蹊会 ● 群馬成蹊会 栃木成蹊会 茨城成蹊会 千葉支部総会 ● 舞浜成蹊会 渋谷成蹊会 静岡県東部成蹊会 ● 長野成蹊会 三重成蹊会 京滋成蹊会 大阪成蹊会 ● 山口成蹊会 長崎成蹊会
--

● 寮歌祭……………49 ● 信州寮歌祭 広島寮歌祭……………49 ● 物故会員／73 予告／73 成蹊学園の近況／74 学園史料館／80 ● 図書館蔵書紹介／82 国際交流センター／83 成蹊会報告／84 ● 表紙の題字は故上條信山先生、絵は澤田隆治(旧高・19年)
--



筆者が大正12年9月、成蹊小学校(池袋)6年に転入した時の写真で、校舎を背景にクラスメート全員の写真、筆者は最前列左から2人目の少年、右端のガウンを着た先生は担任の子吉先生、左端のガウンを着た先生は小瀬松次郎校長

が開かれ、キャンプでの集団生活をし乍ら、海水浴を楽しんだこと等が印象に残っている。

又、創立記念日だったか、記憶は定かでないが、この日、授業はお休みで、生徒一同講堂に集まり、演芸会が開かれた。落語家の柳家小さん師匠や流行歌手の渡辺はま子さん等が来演した。この日だけは、普段と違い、ゆったりと華やいだ雰囲気、生徒には帰りしな、お土産に紅白の「すあま」が必ず配られた。

楽しい一時だったと思う。

閑話休題。現在、教育の荒廃・学級の崩壊が強く叫ばれ、その対策が急がれるとき、略百年前の明治年代後期、「個性尊重の人格教育」を提唱、躰

(しつけ)や心の鍛練を重視した中村春二先生の慧眼と先見の明、そして、その後略七十五前の大正年代の末期、中村先生の教育理念に賛同した方々

が、辺鄙(へんび)な武蔵野の畑や原野に、しかも、今日の五日市街道周辺の自動車の騒音と空気の汚れを予想したかの様に、街道から百米程入った適地に広大な学校用地を購入した周到な計画と英知に、深い敬意を表するものである。

今、「成蹊の教育理念と伝統何処に在るや」と問われるとき、前記の中村春二先生提唱の教育理念、その原点に立ち帰り、考え直してみる必要はないだろうか。

(旧高・7年)

成蹊高等女学校と私

しまだきくこ
島田喜久子

校歌について

成蹊高等女学校の校歌は、私が入学した当時(昭和7年)はまるで一高の寮歌のような勇ましい節でした。

その頃の音楽の先生は一宮道子先生

で、日本女子大の先生もしていらっしやっただけらしい先生でした。その一宮先生が女学生が歌うのにふさわしい曲を、とおっしゃって作曲(歌詞はそのまま)して下さったのが、現在やよい会で歌っている校歌です。

その校歌は久しく忘れられてしましたが、十年ほど前のやよい会の総会の時、なつかしい校歌を歌いたいわねと言うことで、誰か持っている人はいないかしらと呼びかけました。すると15回の小池八重子(旧姓今村)さんがカビだらけだけれど手に入ったと言って、一枚のワラ半紙に刷ってある校歌を持ってきて下さいました。ところどころカビで歌詞が消えていてわからない箇所がありました。三浦美知子先生を混じえ、記憶をたどりながら何とか埋めることができました。



次は楽譜ですがそれも定かではありません。そこで八重子さんの御息のか埋めることができました。

校歌

一 見よ黒雲のつらまきて
あやめもあかぬのせに
秋の光かかげむと
同じ 桃李の下落は
まじむる道の草の庵
飲水の光はゆるたり

二 鳴呼朝あけの高なりは
醒りよと先ぐる里の
日毎の響 胸に秘めり
つとみそつはりのら
もつはおほしじまなる
世念無想の境なれや

三 春馬艶の花散りて
里金とくろ三伏の
この春のけは経廻れど
駒のあかきん花あみなく
籠ごる思ふ重なり
むすぶ我等り意身みよ

四 風蕭條り秋葉落ちて
月影 淡き全朝
ふりしく雪は寒けれど朝
着て、ほ、えむ心根を
誰か知ららん 未へせ

五 この末の世をおもひなば
祖國の行手 丘がらなば
皇國の子や いかにして
駒のなんゆく 足なすん
心の歌を返はすて
なと月花んあぐれん

六 やびては消ゆる朝露の
學華り夢をよそりして
丘きふ下園のあけくれ
秋の露の心を拂ひつ
心の力 歌はなむ

校歌

哲夫君が音楽をしていらっしやっただ彼にまどめて貰いました。伴奏は28回の戸田恭子さんが知人に頼んでピアノをひいて貰い、テープを作して下さいました。

何十年ぶりになつかしの校歌を歌った時の感激は忘れられません。それ以来、会の度に歌っておりますが、いつも美知子先生の顔、八重子さんの顔が浮かんで参ります。こんなすばらしいことをして下さいました。感謝の気持ちで歌っております。

女学校創設について

この機会に女学校の歴史を書かせて頂きました。以下は奥田正造全集によるものです。

成蹊女学校は大正六年創設せられた。中村春二先生の教育報国の熱情から、形式化した教育の弊を改めて真の教育をなさんにはと、先ず最初に実務学校を建てられた。所謂英才教育で、英才をしてその素質を完成して報国の誠をつくさせたい念願であった。次に中学校を建て試み、小学校をも建て更

にその追求を徹底せしめて、母の覚悟の養成から出発すべきであると悟入せられた結果女学校ができた。その頃中村先生は校庭の隅に、不言庵と言う茶室を建てられ、主事の私を庵主にして生徒にお茶を教えさせた。不言庵とは黙して心を養い、其道を樂しめとの貴い教示であった。二年後中村先生から、「茶味」と言う題号までつけて頂いて、教え子に伝えた此道の楽しみを一般の人にも伝えるよう書くようにと仰せがあった。

中村先生御自身は精神を整え、無我真剣の境地に入らしめるためにとて、案出せられた「凝念」と言う正坐の作法を生徒に指導して居られたが、一日私の茶道の教授を見て、是こそ凝念の境地の活視であり実用化である。凝念と茶道とは内外一致相表裏して實際生活に律すべき指導力たるべきものであると三嘆せられ、茶道に抱いて衣食住についての最小単位の生活の標準を制定せんと私と共に努力せられた。やがて成蹊女学校の教育を私に一任せられた。

翻って私がかくものびやかな気持ちにて所信に没頭しうる幸福を思ふ時、浄財を後援して教育と経営とを全く別とし、二十余年に亘る長時日を安心して

私の成蹊時代

私の入学当時奥田先生は校長でいらっしやいました。一般の学校が八時始業の時代、成蹊の始業は夏冬通して七時半でした。先ず学校へ着くと掃除、つづいて自彊術、そして凝念(観音経と心力歌)を行った後、やっと授業に入り、昼食は四年生が作ったものを、先生と共に全校生徒で頂く。食へる前に禅宗の五観の偈を唱える。一粒も残さずに食べ、最後はお茶で食器を清める。(道元禪師の「典座教訓」による)

午後の授業が終わると掃除をしてから講堂に集まり凝念(勝鬘經、勝鬘夫人が仏になるための誓願)の中の十大受章、明治天皇の御製をよんで下校。

私の四年間を申しますと、薙刀は日本一の園部秀雄先生、弓は学習院の大内義一先生、先ず入学式の翌日遠足(豪徳寺、松陰神社) 五月遠足(多摩聖跡) 七月は四泊五日で日光行(白根山、金精峠登山) 板屋泊(一昨年六十五年ぶりに泊りなつかしく思いまし

た。)夏休みの前後夏の学校があり、前期十日間、後期十日間、夏休みは八月一日から二十日まで。一年生は写経と植物採集。二年生はお茶の百点前、三年生はお裁縫、四年生は洗い張りとしり張り、秋は三泊四日、東北旅行(仙台、平泉、松島)、二年の時の春は武蔵嵐山へ遠足、夏は箱根仙石原仙郷樓(テント生活も体験) 秋は上高地(徳本峠を越えて島々へ) 一日十里を歩き途中草鞋をはきかえ浅間温泉に着いた時は口も聞けない程疲れました。

三年生の夏は沓掛千ヶ滝で九舎に分宿、一軒で先生・四・三・二・一年生が二、三人つづで一家を作り生活、楽しい思い出です。

四年生の秋は関西旅行、出かける一ヶ月前から勉強、それぞれ行く先を分担してしらべ、特に法隆寺の建築については詳しく習いました。伊勢神宮、高野山、法隆寺、八幡岡福寺、比叡山、大徳寺塔頭瑞峯院を見学し、法隆寺の普門院、瑞峯院、円福寺と、普通では泊めて頂けない処に泊めて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。

帰京の際、急に寝台車に変更になり、当時の三等寝台は三段で、奥田先生の上には誰が寝るか大騒ぎ致しました。が、結局、私が寝ることになってし

まったのを覚えております。私は戦災で焼いてしまいましたが、級の人がその旅程表を保存しており、十日間で五十円と言う当時の費用としては贅沢なものでした。何しろ列車以外はタクシーで移動しました。

又このような贅沢とは逆に、不言庵のお懐石など、井戸水を汲んでかめに入れ、炭火で料理を作ると言う苦勞もさせて下さいました。

不言庵の主旨が「家は漏らぬ程、食事は飢えぬ程」と言うことからだったと思います。

行事としては十二月七日の徹夜会で、お釈迦様が明けの明星をみて悟りを開かれたと言う故事を偲び、写経をしながら八日の朝を迎えます。(仏教では成道会と申します。)

十二月二十三日から三日間の断食会、(この行も中村先生以来何十年と行われている。) 一字一石三礼の写経を行う。

個人的には奥田先生と、島田の父が淑徳高女で同僚、主人は小学校の時奥田先生から加減乗除の速算法をお習いした由、その御縁で私をお世話下さったのです。

因に毎日講堂で全校生徒が拝んでおりました聖徳太子の童子姿のお像が、

戦災の焼跡からみつかったのを、奥田先生の奥様からお預かりして毎日拝んでおります。

奥田正造全集の「法隆寺参籠追憶」の大正十五年のところに、学問の太子

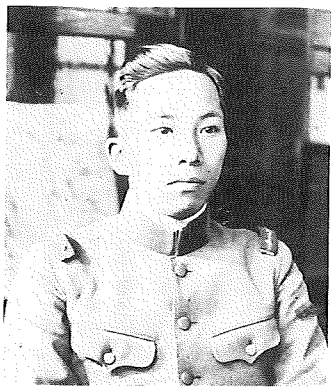
西村健二先生の話

成蹊旧制高等学校名物教師

にしむら 西村 ひろし 洋

学校講堂へと、開眼供養梵唄散華して特に読経して下さると書いてありますので、多分そのお像ではないかと思えます。(女・11年)

過日、来年旧制高校創立75周年を迎えるに当たり、標記の件について成蹊会誌に投稿してはどうかとの話があった。よくよく考えてみると息子が名物教師と言われる親の事は如何にも書きにくい。尋常科時代教練で小隊長を命じられ「西村先生に敬礼、頭右」と言った事が如何にも気恥ずかしく思い出されます。さて、小生はこの様な立



西村健二先生

場から父の略歴と心情などを記載するに止め、名物教師振りは、諸先輩に執筆して頂くのが良いと思われまますので、次の方々にお願い致しました。(旧高・20年)

第二話 永井真茂

「十九」の愛称で親しまれた西村先生には成蹊在学の七年間教練を、そして理一のとき地質鉱物の授業を受けて。教練は苦手であり身が入らず成績は乙しか頂けなかった一方、地質鉱物には興味をそそられて勉強したので、学年末の試験を風邪で欠席したのに甲を頂戴した。

当時、年に一度教練には査閲と称する陸軍より派遣された査閲官の前で全校生徒が教練の成果をひろうする行事

が行われていた。

理三のときの査閲でファイナルの全員突撃の前に発煙筒で煙幕を張る役目を命ぜられた。リハーサルでは発煙筒は棒切れで代用されたので発煙筒は煙と同時に炎も吹き出すことには全然気がつかなかった。

本番のとき張り切って地面すれすれに発煙筒をかざして教練場を一息に駆け抜けて振り返ると、枯れ草に火が燃え上がって突撃どころではなくなっていた。

西村先生の「演習中止！全員上着を脱いで火を叩いて消せ」の咄嗟の命令で間もなく鎮火できてほっとした記憶がある。

先生は厚紙を地図の等高線に沿って切り抜いて張り合わせ、地形の立体模型を作製する特技で有名で小生も興味を引かれたが残念ながら授業では全然説明がなかった。戦後マイクロ波通信が始まった際には中継局の設置地点の選定に先生のこの立体模型が利用されたと聞いている。(旧高・11年)

第二話 久我太郎

一、「扶桑通り」学齡帰国、聖心幼稚園で日本語ものならず、急遽一家挙げて武蔵野村野田北1295に引

第三話 鎮目恭夫

土も草木も火と燃える
果てなき広野踏みわけて
進む日の丸鉄兜
馬のたてがみでながら
明日の命を誰が知る

毎年春だったか秋だったか全校生徒が鉄砲を担いで校庭から浅川の大正天皇陵まで三十五キロの行軍をした時よく歌ったものだ。高校尋常科の四年間、私の甲組の担任は国語の中村清一郎先生(俳人草田男)、西村先生は隣の乙組の担任だったから、私は西村先生の人柄に接したことは余りない。だが今から思えば、先生は独学の実直な地質学者であり、天皇を格別崇拜していたわけではあるまい。配属将校の大佐やもう一人の教練教官の大尉と比べて中尉だったし、他の教師には大学出が多かったから、成蹊では肩身が広くなかったにちがいない。

教練の時間には、査閲のリハーサルの時だったか、誰かが教育勅語の暗唱で「朕爾臣民と俱に拳々(ケンケン)服膺」という所で詰まったら、配属将校の背後で見ていた先生が片足を上げてケンケンして見せた姿が今でも目に

越し成蹊小入学(昭5)。家の前の扶桑通りを南へ五日市街道を越えると大正12年19才(ジュークの由来)で西村家婿養子に入られた西村健二先生のお宅。令弟平井秀松(柔道先輩)令姉平井先生(愚弟幼稚園恩師)御長男西村洋(競技部)各位等御一家との御縁も浅からず、大学進学後は御門前を過ぎ通学、生徒出陣ご挨拶も敗戦復員ご報告に上り痛飲の挙句御座敷北窓から身を乗り出し師弟共々小間物屋開店に及んだのもこの御宅であった。

二、「不肖の弟子三冊の本」ワット生誕200年(昭11)記念展に「菊丸」模型を出品、入賞記事掲載の「子供の科学」誌上の地形模型部門審査委員長西村先生講評に触れ、その頃ゾルと称された石頭軍人じゃないと再認識した。尋常科担任加藤藤吉先生には日々気象観測で鍛えられ「フルーク、ウント、ヴォルゲン」を拝借、西村先生には「ジオー地学だ」と化石スケッチでしごかれ「フォッシル、イン、ヴェー」を拝借、生徒出陣戦地赴任には「航空写真による地形、樹種判定」を餞けられた。海軍航空隊基礎教程で「氣象」代講を命じられたり、リンガエ

浮かぶ。当時私はそれを不敬なことと感じたような記憶がある。思えばそういう時代だった。後に硫黄島で玉砕した同級生の竹岡漢一君が原田大佐に銃の台尻だったかで殴られたとき先生が心配そうに眺めていたような記憶もあるが、これは誰か友達からの又聞きの記事かもしれない。

成蹊の同級や先輩の中に、こんなことを書く人は今も稀なようだが、如何。(旧高・19年)

第四話 杉山直樹

三鷹駅近くの自宅から成蹊まで、こどもの足で三十分足らず。西村先生のお宅はほぼ中間点にあった。小学校時代、月に数回は先生宅の前を通って登校した。

昭和十一年、二年生のときだったか。

「おーい。小学生。ちょっと待て」というドスのきいた声。生け垣のむこうの濡れ縁に軍服姿の仁王立ち。学校でいつも見かける先生だが、なにかの間違いだらうと歩きつづけると、間もなく追いついてきた先生が「なぜ待たないのか。怖いのか。怖くはないぞ」しかたなくついて歩く。何となく足取りが物憂げで、身体から酒の匂いが



生徒と共に(五日市・盆堀部落にて)

ン湾、クラークフィールド、沖繩日々偵察(H110,000m、F150cm)判読にこの資料大活躍、不肖な弟子には過分、之も成蹊でなければ御目にかかれなかった両先生のお蔭様。石油危機の頃は原油

担当で月に数回訪れる産油国首脳を「フォッシル、イン、ヴェー」受売りで煙にまく等この御恩は永続しした。(旧高・17年)

られる。

山崎先輩は現在もM70部門で世界に挑戦中である。

その他にも卒業してからマラソンに目覚めて学生時代にはとても想像できなかった好記録を出す御仁がいたりとか卒業後も陸上競技に対する情熱を持ち続けて活躍しているOBも多い。

ついでに私事

私が現役の頃はちょうど学生運動が真っ盛りのおきであり、土曜の夜ともなると新宿の西口ではフォークギター片手に反戦集会が行われていた。

ちょうど夏の合宿を終えたわれわれ陸上部員が新宿に降り立つと既にそこでは集会が行われており、そこを通りかかった我々の手には槍を入れたケースとポストンバッグには砲丸や円盤、槍のケースをゲバ棒（と言っても今の若い方にはおわかり頂けないかもしれないが）と勘違いされて機動隊員に職務質問をされ、ポストンバッグを開けさせられたらそこから砲丸や円盤がゴロゴロ、無実を証明するのに一苦労したことも今となっては楽しい思い出。

また、青少年センターなる由緒正しき施設で合宿したときも、その施設の決まりである朝の国旗掲揚への参加を

すから、日々の進歩もはっきり目に見えましたが、それまでほとんど馴染みのない言語で、かつ頭も固くなってきており、その習得は楽ではありません。言葉が思うようにしゃべれない、理解できないことが、こんなに苦しいことなのかと、今さらながら思い知りました。

しかし、やはり必要があれば、人間何とかするものです。来蘭して約4ヶ月後に妊娠し、定期的に検診に行くようになりました。助産院で、どうしてわからない時は英単語を使ってくれましたが、基本的にはオランダ語でのチェックです。最初は夫も付いてきてくれましたが、毎回というわけにも行きません。自分で聞きたいことの単語リストを作って持っていく、妊婦・出産に関する本も、日本語と英語、オランダ語の3カ国語で読みました。やはり、一人目ですし、不安も一杯でしたから、聞けることは何でも聞きたいという状態だったと思います。お産についてだけでも、国によって様々で、ちょっとした比較文化を論じることができそうです。

子育て天国？ オランダ

さて、産んでみて、子育てを始めて

めぐって部内の保守系と革新系が対立したり……。当時の社会情勢、また数ある運動部の中では最も知的と言われた陸上競技部ならではの出来事であった。

最後に

このところのジョギングブームなどから多少見直されてきたものの、元来ゲーム性に乏しい性格からどうもマイナーなとられ方をしてきた陸上競技ではあるが、大した道具も必要なければ場所も時間も天候も選ばないこのスポーツをぜひ皆さんにもトライして頂きたい。

もうすぐそこまで来た高齢社会を迎えるにあたり、低コスト・省エネの陸上競技で健康な老後をお送り下さい。参考までに……

日本マスターズ陸上競技連合

〒640-8355

和歌山市北ノ新地1-25

富士火災ビル2階

TEL・FAX

(0734) 327416

(株)ハチケン(工・45年)

みると、オランダはとて面白い国でした。産後ケアのシステムも整っているし、子育てグッズなども優れものがあるのですが、何よりも一番大きな違いは、考え方はないかと思えます。当たり前のごとくですが、子育ては夫婦です。もちろん、母親が一番手をかける時間が長いのですが、まだまだ20、30代の若い女性ですから、他にやりたいこともある、たまにはスポーツもしたいし、買い物に出かけたりもしたい。そういった欲求に理解があるのが違うかな、と思います。

例えば、私の住んでいる所のスポーツクラブでは、火水木の午前中にベビシッターの人がいて、エアロビクスやジムトレーニングの部屋から見るところで子供を見ていてくれます。まだ首のすわったかどうか位の頃からベビーを連れて来て、一時間ほど体を動かすお母さんが何人もいます。月間料金を払っている人なら、別料金もかかりません。

いわゆるベビシッターも、家に普通の高校生が来るのが一般的で、夫婦で食事や映画に出かけたりするのは当然のことと思われる。高校生くらい歳の歳で、子供の面倒をみるとい

海外だより

オランダ生活事情

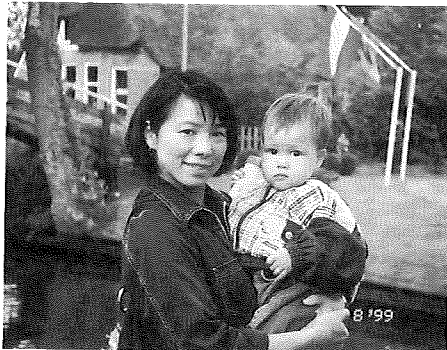
てぶかゆりこ
手塚由利子

東京で知り合ったオランダ人と結婚し、こちらに生活するようになって四年半になります。アムステルダムやハーグなどの、オランダの中心部から約120km程東北方面に行った、ダルフェンという、全くの「村」に生活しています。よく、日本の友人達からは、そんな所で一体何しているの、と言われるますが、これは、連れ合いがサラリーマンであり、仕事場の近くに家を構えたことで住む場所が決まったのです。

成蹊学園からカウラに留学させていただいたホームステイの一年間を除けば、長期で外国に生活するのは初めてでしたし、大学卒業後は10年近く東京でフルタイムの仕事をしていましたから、生活は間違いなく大きく変化しました。

まず、オランダは、特にビジネスの世界では、割に英語が通じる国として認識されている国だと思われませんが、私の住む所では、基本的にはオランダ語を話さないと、人との距離感を狭めることができません。もちろん、多少の例外はあるにせよ、お店などでも、流暢に英語で頼むより、片言でもオランダ語を使った方が、親切にもらえるのです。

今だからこそ、そう言えるのですが、来た当初はやはり大変でした。カウラ留学の頃はまだ若かったし、一応は学校で勉強していた言語を使うので



息子 彩門と ('99年8月)

のもまた、とてもいいことだと思うのです。それがアルバイトになるわけだし、子供に慣れて、他の場面でもよその子供に対してやさしくなれる。日本に帰国した際に、一番妊婦や子供連れの母親に対して不親切なのがこの年代です。

日本では、それまでどんな人であれ、母親となった以上、まずはそれが第一、もし何か間違いがあれば、確実に母親に責任があると、批判の対象になります。髪の毛を振り乱し、孤立した存在になりがちだと思います。一方、お父さんは週日は、残業やつきあいで子供を寝かせる時間前には帰って来ないし、週末は仕事疲れでほとんど寝ている。そんな関与の仕方はオランダの奥さん達は許しません。父親も夕食の時間（これもとても早く夕方の6時位）に間に合うよう帰宅し、子供を寝かせるまでは共に戦う？ のが通常の家庭です。うちの場合は、日本の経験が災いしてか、出張の多い職種のためか、夫がオランダ人である割には終日不在であることが多いので、必ずしも当てはまりませんが、それでも家にいる時や、週末にはおおいに参加してもらっています。

そして、家の周りに小さな児童公園

えっ、オランダ語？

まず、オランダは、特にビジネスの世界では、割に英語が通じる国として認識されている国だと思われませんが、私の住む所では、基本的にはオランダ語を話さないと、人との距離感を狭めることができません。もちろん、多少の例外はあるにせよ、お店などでも、流暢に英語で頼むより、片言でもオランダ語を使った方が、親切にもらえるのです。

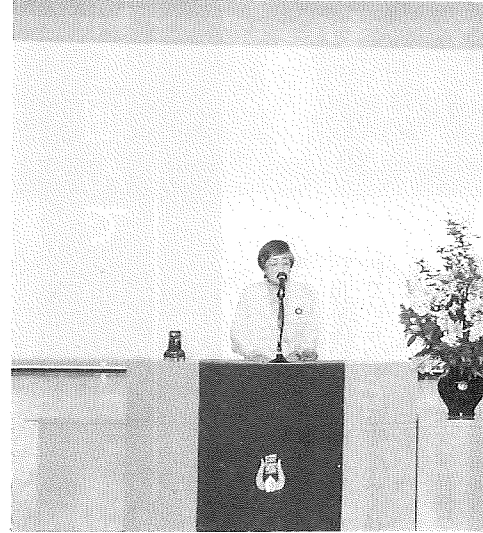
今だからこそ、そう言えるのですが、来た当初はやはり大変でした。カウラ留学の頃はまだ若かったし、一応は学校で勉強していた言語を使うので

が数多くあるのはもちろん、街に出れば、例えば郵便局や普通のスーパーでも、ブロックで遊べるテーブルや、ビデオコーナーなどが設けてあり、ちょっとした待ち時間を子供が飽きないように配慮してあります。かなり有名な美術館等でも、スペースが許す限りは、ベビーカーの持ち込みも可能です。逆に、こんなに子供連れに親切でいいのかな、と思うような場面もある位です。

現在は、上の娘が三歳半、下の息子も一歳半となり、合間を縫って翻訳や、たまに通訳の仕事を受けられるようになりました。（あくまで英和と和英ですが、たまに蘭和の簡易な翻訳にもトライしています）それとこのようにも、このような恵まれた環境で子育てをしているおかげだと思えます。もちろん、日本人ですから、美味しい和食が食べたくりますし、四季折々の行事などの便りを受け取るとなつたかしく、日本に思いを馳せることも少なくありません。ですが、実際に2人の子連れで東京に暮らすとなると色々制約はありそうです。少しずつでも、子供とその母親にやさしい社会が実現するよう願ってやみません。

(高・57年)

演題：「歴史と人間」
講師：永井路子氏



講演会：永井路子氏



懸賞論文入賞者表彰

当日は、大学も非常に力を入れ、多数の行事を行って頂いたのはご苦労様と申し上げたい。作家の永井路子氏の記念講演は会場に入りきれず、予備室（5号館）を使い70人が参加した。史料館では、写真展「成蹊大学50年のあゆみ」があり、一日の入館者は1,200名と、開設以来の記録となったそうである。

また、施設見学もあった。特筆すべきは、大学の好意により学食とトラスコンガーデン（旧トラスコンが現在学生のホールになっている）が無料開放され、多数の方々も舌鼓をうった。因みに一番出たのはカツ丼だったそうである。



アトラクション：混声合唱団



交流パーティー（学生食堂）



交流パーティー（トラスコンガーデン）

ツ井だったそうである。その後立食パーティーが学生食堂他（四つの会場）で開催され（なんと無料）、柳井学長の挨拶、政治経済学部同窓会長の瀧先輩の挨拶、石坂先輩の乾杯で夕刻まで盛り上がったそうである（小生は所用の為中途退席しました）。

ホームカミングデーとは馴染みのない言葉であるが、大学側の説明を交えながら説明すると、成蹊では、大正13年に7年制の旧制高校が開校され、その後戦後の学制改革の際に旧制高校が廃止されるとともに現在の大学が新設されたのであるが、今年は新制大学が満50年を迎える年であり、同時期に新設された他の大学と同様に、今年成蹊大学も50周年記念事業を行うことになった。その一環として成蹊ではホームカミングデーを企画したというわけである。前学長の宇野先生の時から検討を行い、記念事業検討委員会、企画運営部を中心に進めて来た。記念事業としては他に、武蔵野市からの寄附による講座（寄附講座）の新設、記念論文の募集、種々の市民への大学解放プログラム、学生企画によるプログラム等多岐にわたった計画が組まれたのである。

ホームカミングデーについては我々同窓会にも、柳井学長自ら

ら出向かれて協力要請があり、また当日は、多数の教職員が出勤する等初めての行事を成功させようとの熱意については頭が下がる思いである。大学側の主旨はホームカミングデーに卒業生に来校して卒業生同志の旧交を温め、もう一度母校を見直して、今後の発展に寄与してもらいたいとのことであったと思うが、連絡先の判明している卒業生3万8千人に招待状を送って頂いたわりには卒業生の来校が少なかった。同窓会の主な一員として反省する次第であるが、来校されなかった諸氏にも一考を促したい。

赤星有一（法・48年）



大学創立五十周年記念 ホームカミングデー

去る10月31日に大学構内にて、大学主催のホームカミングデーが開催された。当日の天気は曇り、一寸肌寒い一日であった。

気のせいかな、例年に比べ樺の緑がまだ多いと感じる中、多数の卒業生、旧教職員、来賓が訪れた。ホームカミングデーの来校者数は2,300人を超え、当日に開催されたゼミのOB等は26を数えたそうである。特に目立ったのは小さい子供を連れた親子連れであり、また、他校を卒業した奥さんを同伴した人



乾杯：石坂泰彦氏



挨拶：瀧 秀彦氏



挨拶：柳井学長